

# 羽ばたこう 立志の丘から

平成27年6月17日  
No.9

## 南教育事務所 仙北出張所長 学校訪問

6月16日、南教育事務所仙北出張所 須田 喬 所長をはじめ、南教育事務所 齊藤副所長、仙北出張所 嵯峨副主幹、南教育事務所 藤原社会教育主事から学校訪問をしていただき、ご指導を賜りました。

須田所長は社会科の指導主事、副主幹、教育委員会次長、中学校長を務めるなど、時代の求める教科指導や学校経営に造詣の深い方で、本校の生徒の様子を見ながら、全般的に指導していただきました。その中で、体育の時間の後半に、疲れた友達をさりげなく思いやる生徒の姿から日頃の人間関係のよさ、好ましさがかがえると話されました。



4人の先生方の主な講評・指導は次のとおりです。生徒も先生方も明るく生き生きしており、受容し合う授業である。教室や廊下の環境が鮮やかで、生徒の作品やこれまでの活動が振り返られ、学習環境として整っている。生徒と先生のコミュニケーションが図られていることが掲示物からも察せられる。

学び合いを標榜する学校であるので、授業の中で、もっと関わり合えるようにしてほしい。そのためには学習課題や題材を工夫するとともに、授業の展開における生徒の予想と考察等を十分に生かしてほしい。また、生徒の安全には、校内生活全般はもちろんであるが、その授業その授業の特質に応じて、十分配慮するように、心がけて実践してほしい、などをご指導いただきました。生徒のよさを伸ばしながら、改善を図ってまいりたいと思います。ありがとうございました。

## 阿部君 空手東北大会 優勝！

先に全県大会で準優勝した本校の阿部君が、6月7日、宮城県で行われた「第12回 全日本空手道連盟剛柔会東北空手道選手権大会 形 中学生男子の部」で、見事優勝しました。おめでとうございます。阿部君は、学校での生活文化部員としての活動とともに、空手道にも励んでいる生徒です。今夏には、大分県で行われる全国大会の出場権も獲得している阿部君です。ますますの活躍を期待しております。



## 部活動最終調整・招待試合

6月6日には、中仙八乙女テニスコートにおいて、豊成中学校招待女子ソフトテニス大会が県外チームを含む12校の参加で開催されました。参加した本校ソフトテニス部は、予選リーグを1位で抜けたものの、決勝トーナメントで惜しくも敗れ、3位でした。今回の対戦チームは、郡市総合体育大会でも対戦が予想される相手です。この大会での課題を、ぜひ克服して、総体に臨んでほしいと思います。

同じく6月6日、バレーボール部は、山内中学校で行われた「第3回いぶりがっこ争奪中学校女子バレーボール大会」において、予選リーグを1位で通過、決勝リーグでも健闘、第3位に入賞しました。こちらも、郡市総合体育大会で対戦が予想される相手でしたので、課題を、ぜひ克服して、総体に臨んでほしいと思います。

## 「NISHISEN FLOWER」 「西部わくわくランチ」竣工記念花壇

本校の技術室・美術室の横に、「NISHISEN FLOWER」花壇が造設されました。



この花壇は、西部学校給食センター、愛称「西部わくわくランチ」が、この4月に開設されましたが、その竣工記念として、給食センター所長等が企画し、本給食センター建設にも関わった、地元の田村燃料施設工業さんが、地域貢献事業として造設してくれた花壇です。

5月から整地、基礎工事、土入れ、土づくり等を行っていただき、生活文化部員の皆さんが花壇の設計図を考案。また、花壇の名称を決め、花壇の看板もデザインして作成するなど、協力してくれました。



そして、6月9日、1年生は入学記念として、花植え作業を行いました。



花植え作業には、田村燃料施設工業の社長さんや給食センター所長、教育委員会教育総務課長さんなど、関係者も多数参加してくれました。関係の皆様のご支援ご協力、本当にありがとうございます。

また一つ、西仙北中学校の自慢が増えました。シンボルである「世界のひまわり」とともに、この花壇を大切に育てていきたいと思えます。

皆様、ご来校の際は、ぜひご覧ください。

## 2年生 理科の研究授業 指導主事訪問

6月11日は、2年B組の理科の研究授業が行われました。秋田県教育庁南教育事務所 島田指導主事、大仙市教育委員会 和田指導主事に訪問いただき、ご指導を賜りました。

教科担任は岩谷先生で、授業内容は、「化学変化と原子・分子」という単元でした。「銅やマグネシウムを繰り返し加熱すると、質量はどう変化するか？」というテーマで、生徒たちは予想を立て、実験を行い、その結果から自分の考えをまとめました。



「学習課題－予想－実験－結果－考察」という授業の流れで、生徒の学び合いや思考力・判断力の育成などが図られたか、表現力は向上しているかなどの視点で、先生方は研修しました。

お二人の指導主事からは、生徒の学習意欲の高さや素直で真剣な授業態度、既習事項を生かした予想、互いに学び合う姿など、その積極的な学習活動を褒めていただきました。授業は時間が足りなくなるほどの熱心な取り組みでした。

授業後、島田指導主事からは、生徒の皆さんには、皆さんが行っている「問題解決学習」の手順はノーベル賞学者と同じだということを伝え、科学の学習にもっと意欲をもたせてほしい旨のお話をいただきました。また、教員に対する授業づくりや指導の在り方の具体的かつ細かな指導とともに、ノーベル物理学賞・化学賞のメダルの裏側には、科学の女神が自然の女神のベールを上げている図案があるが、科学の力で自然の不思議を解き明かすのだというお話をいただきました。



さらに、これからの学習は、「何を知っているか」から「何ができるか」へのパラダイムシフトがな

されているという示唆に富むお話もされました。

生徒も教員も、指導主事の先生方のご指導を生かして、今後の授業や学校行事等に取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

## 1年生 道徳の時間 研究授業

1年A組で、教育実習中の三浦先生が研究授業を行いました。今後、特別の教科として実践される道徳の時間ですが、本日は「氷河上の決断」という資料で、命の尊さについて考える授業でした。

登山隊の女性隊員がクレバスに転落してしまい、みんなで助けようと懸命の救助活動を展開するもののクレバスは深く、絶望的な状況になります。登山隊の隊長は、このまま救助を続けるべきか、他の隊員の安全のために撤退すべきかの判断を求められるという資料でした。



救助を継続するべき、いや中止するべき、迷うというような立場で生徒はそれぞれ自分の考えを述べました。隊長はどうするべきか、あなたが隊長であればどう判断するか、友達の考えを聞いた後で、あなたの心のバロメーターは、救助に傾いていますか、それとも中止に傾いていますか。

生徒は、難しい判断とともに命ということについて考え、「一人の命と複数の命という比較をすべきではない」、「命は死と対するだけではなく、生として、その命に周りやどう関わるかという存在でもある」、などという、深い考えが発表されました。



## 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 認定証 交付

新聞報道にもあったように本校生活文化部科学研究班が、齋藤憲三・山崎貞一顕彰会から認定証を受け、研究助成金をいただくことになりました。

齋藤憲三・山崎貞一顕彰会の研究助成認定証交付式は、6月12日、秋田市の秋田ビューホテルで行われ、生活文化部科学研究班の代表である3年 田村さんが、顧問の高田先生の引率で交付式に出席し、巴徳雄理事長から、県内の小・中・高校の41校の1校として個人研究者6名とともに、認定証をいただきました。



本校の研究課題は、「過冷却水でできる氷筈の形や高さの条件 Part 3 ～大きな氷筈ができる液体の条件を探る～」であり、科学研究班のメンバーは毎日、地道に研究を継続しています。